

第1章 2025年度京都大学構内遺跡調査の概要

伊藤淳史

1 調査の概要

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター京大文化遺産調査活用部門では、吉田キャンパスおよび附属施設の敷地内における建物新営など掘削をとまなう工事に際し、予定地の埋蔵文化財調査を、既知の遺跡との関係や過去の調査結果に照らして、発掘・試掘・立合にわけて実施してきた。2025年度には、以下のように発掘調査3件、立合調査1件、資料整理1件をおこなった。なお、発掘調査のうち1件は2024年度中に着手され継続していたものである。2024年度末の実施で報告できなかった立合調査2件もあわせて報告する（括弧内は、図版1および表1の地点番号）。

（2024年度）

立合調査 北部ガス管更新工事（北部構内B K30区）（図版1－523）

病院排水管更新工事（病院構内A J20区）（図版1－524）

（2025年度）

立合調査 先端フィールド科学研究拠点棟建設先行整備（北部構内B H34区）（図版1－526）

（南部）総合研究棟新営その他工事（病院構内A J10区）（図版1－528）

発掘調査 医学部多目的施設建設（医学部構内A Q17区）（図版1－522）

研究者宿泊施設建設（医学部構内A N16区）（図版1－525）

先端フィールド科学研究拠点棟建設（北部構内B H34区）（図版1－527）

資料整理 （南部）総合研究棟（環境・共存・共生イノベーション拠点棟）（病院構内A J10区）（図版1－521）

2 調査の成果

以上のうち、2025年度に整理を終えたものについて、成果を略述する。なお、病院構内A J10区については第2章で、医学部構内A Q17区については第3章であらためて報告している。また医学部構内A N16区および北部構内B H34区の調査については、年度後半～末に連続して実施されて資料整理が未了であり、次年度に報告する。

病院構内A J10区の発掘調査 吉田キャンパス西縁で鴨川の東方約100mに位置する。試掘調査により近世の遺物包含層が良好に残ることが判明して発掘調査したもので、前年度に遺構の概要を略報した。近世の井戸や野壺といった耕作関連遺構とともに、近代の京

都織物株式会社のレンガ積工場基礎や当時の川跡と石積み護岸などが検出され、近世の耕作地が、明治以降の近代化で急激に開発されていく様相が明らかとなった。また、出土した遺物には、織物会社に関連する意匠を持つ陶磁器類など興味深い一群が含まれる。

医学部構内A Q17区の発掘調査 調査地は医学部構内の北辺で、北側を古道の白川道を踏襲した現在の志賀越え道がはしる位置にある。半ば以上の範囲が攪乱により滅失していたものの、残存範囲で中世の遺構は密に確認され、まとまった遺物出土をみた。時期は13～14世紀代が中心となり、大小無数の掘り込みが互いに切りあいかつ重なり合いながら、厚い遺物包含層を形成している。ピットは根石を持つものも多く、中世の一定期間、道沿いに雑舎が立ち並んでいた様相をうかがえる。また調査地西北辺では中世段階の白川道側溝とみられる流路を確認しており、古道の位置特定に貴重な情報を追加できた。なお、本年度はこうした遺構についてを報告し、出土遺物については、次年度に報告する。

立合調査 北部構内B K30区（523地点）は、構内でも北縁の御影通りの至近に位置し、周辺の調査履歴の乏しい地区であるが、中世段階の遺物包含層とみられる堆積が良好に確認されている。また、北部構内B H34区（526地点）は、フィールド科学教育研究センター北白川試験地である演習林内における新棟建設に先行して樹木移植や給排水・電気等インフラ設備の移設の必要が生じ、広範囲で随時立合調査したものである。演習林内では全域で表土下のごく浅いところに良好に遺跡が遺存しており、下部には厚い黒色土層が堆積することが明らかとなった。年度末には建設予定地の発掘調査が進行しており（527地点）、成果は次年度に発掘とあわせて報告することにしたい。